

小学校図画工作科教科書内容に関する日中の比較

格 根 薩 仁

Abstract

This research is the comparative study of China and Japan elementary school art textbook-contents. Specifically, Comparison coat done through China Primary School Art published by China People's Education Press in 2003 and Japan Primary Art published in 2011. This paper aims to analyze the statues of Inner Mongolia art education.

Within the international horizon. This article tries to find new education methodologies and contents. This paper pointed out the existing problems of Inner Mongolia primary school art education, and then implement the education contents.

キーワード……教育カリキュラム 図画工作科教科書 日中比較

はじめに

本稿では、小学校図画工作科教科書に関して、中国人民出版社より 2003 年発行の「美術」¹⁾と日本文教出版より 2011 年発行の「図画工作」²⁾の内容を比較することから、今日の内モンゴル自治区の図画工作科のカリキュラムのあり方について考察した。中国の全地で使われている図画工作科教科書とそれとは異なる日本の文化圏において作成された教科書の方針と内容について比較検討することにより、現代の教育で求められている国際的見地に立つカリキュラム開発の視点を見出せることができるのではないかと考える。また、他国の教科書に表されている異なる美術教育の観点から内モンゴルの教育を批判的に振り返ることができ、小学校図画工作科をさらに充実させるための視点が見出されるのではないかと考える。

本稿では、国により定められた教育基準に準拠しており、教科書作成の内容と方針について確かな理解を得るために、中国教育部によって作成・発行されている「課程基準」、「教師用書」³⁾と、日本文部科学省検定済してから発行されている「小学校学習指導要領解説・図画工作偏」・「図画工作・内容解説資料」⁴⁾について、それらの方針と基準を比較する。次に両国の教科書を取り上げ、題材の内容について検討しながら、学習内容の傾向について比較する。そして、中国の図画工作がどのような領域によって学習内容が構成されており、どのような考え方に基づいて各領域の内容が決定されているか詳しく分析する。要するに、両国の教科書の出版に伴

って作成された教師用指導書に示されている学習指導方法について検討しながら、どのような教育的観点から指導が勧められているか検討する。結論では、内容基準、学習内容、指導方法の3項目の比較検討に基づいて、今日の中国の小学校・図画工作科のカリキュラムの方向性について検討しながら、中国内モンゴルで使われている教科書内容の特徴とその課題となるところをまとめ、図画工作の授業内容の中でどのような内容が必要であるかについて考えていきたい。

1 図画工作科教科書の採用と学習指導要領

1.1 学校教育で採用されている教科書

1.1.1 中国の学校教育で使用される教科書

中国の教科書は、中国国家教育委員会直属の人民教育出版社が建国以来、執筆編集・出版してきたが、1985年に教科書検定委員会（原語は「全国中小学教材審定委員会」）が発足してからは検定制度も始まり、人民教育出版社以外のごく一部の大学出版社なども教科書作りに参加できるようになった。一方、少数民族に関しては、国家教育委員会と国家民族事務委員会が1992年に配布した「少数民族の教育を強化することに関するいくつかの意見」において、「民族自治機関では少数民族の文字による教材の編集、出版および検定を強化すべきである」と指摘されたと中華人民共和国義務教育法に記述されている⁵⁾。

中国教育部が策定した教育課程の規準に基づき、省・自治区・直轄市がそれぞれ教育課程を策定する。国が定める課程は、教科と教科外の活動であり、各学年の年間授業時数は明記されているものの、各教科の授業時数の詳細については規定されておらず、百分率で示した時間配分の範囲が規定されている。そのため、省・自治区・直轄市が定める課程は、地域や学校の事情に応じて定めることができる。例えば、外国語や少数民族の言語、情報技術などを行うことができる。

1.1.2 日本の学校教育で使用される教科書

日本では、文部科学大臣の検定を経てはじめて、学校で教科書として使用される資格が与えられる。教科書を出版する会社は、作成した検定を受けようとする教科書について、まず、文部省に申請する。その申請図書は、教科書として適切であるかどうかを文部科学大臣の諮問機関である教科用図書検定調査審議会に諮問されるとともに、文部科学省の教科書調査官による調査が行われる。審議会での専門的・学術的な審議を経て答申が行われると、文部科学大臣は、この答申に基づき検定を行う。教科書として適切か否かの審査は、教科用図書検定基準に基づいて行われる。日本の小学校における教育課程は、学校教育法施行規則と学習指導要領に基づ

き全国的に統一されて実施されている⁶⁾。

なお、本研究では、日本と中国の小学校における指導要領（課程標準）⁷⁾の基準に基づいて、2013年に適切されている図画工作科教科書を対象として用いた。それは、中国人民美術出版社から2007年に出版された「教科書11書、6年生上」と日本文教出版株式会社から2011年に出版された「教科書5、6年生下」である。題材と内容を組み合わせるため、一部は、中国の1年生下と3年生下の教科書の内容を選択して取り入れた。また、付属資料として、中国人民美術出版社から2007年に出版された「中国の教学参考用書」、日本文教出版株式会社から2011年に出版された「日本小学校学習指導要領解説、総則編」、「日文の教科情報、内容解説資料」を使った。

1.2 学習指導要領と課程標準

課程標準は、中国教育部が基礎教育課程に対する最低限の規範と基準を示す大綱的な文書で、日本では学習指導要領にあたるものである。

日本の学習指導要領はほぼ10年ごとに改訂されている。現行のものは2008年3月に公表されたものである。中国では1992年より実施していた課程を旧課程、2001年7月以降実施している課程を新課程という。課程標準は新課程の誕生とともに出され、科目ごとに単行本の形で9年一貫制により作られている。各科目が統一の様式で課程目標（知識・技能、過程と方法、情意・態度と価値観）、内容標準（教科領域、目標及び行動目標）、指導上の助言（教授の助言、評価の助言、教材開発の助言、教育メディアの利用）、付録（専門用語の解釈、実例）により編成されている。日本の学習指導要領はこれと違って小学校と中学校に分けて作られ、各教科が一冊に纏められている。教科ごとに、目標、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱いに区分され、編成されている。

1) 全体的な基本方針によると学習指導要領では、①生きる力を育成すること。②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成することが求められている。課程標準では、①課程の価値観はエリート教育から大衆教育へ転換すること。②課程の編成は学習者の全面的な素質の向上を図る。③教師主導型の教育方法からカリキュラムの実施過程を重視すること。④課程管理は柔軟性を図ることが求められている。

2) 図画工作の基本方針によると学習指導要領では、表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う⁸⁾。課程標準では中国美術教育の教科書は、義務教育の理念に対応する、人文と審美の本質を強調し、「審美感情」、「美術を愛好する態度」及び「正しい価値観を養う」を目標の首位の位置につけている⁹⁾。

1.3 考察

学習指導要領と課程標準については、日本の学習指導要領は、学習者の「知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力及び学習意欲を重視し、学校教育ではこれらを調和的にはぐくむこと」¹⁰⁾をねらいとしている。これに対して課程標準の編成は、素質教育の強化を目標として、「学習者の全面的発達」、いわゆる「創造力、実践力の育成と同時に、心身発達に応じて生涯教育」に立つ観点を理念としている。学習者の発達に着目する教育目標においては、両国は共通している。

2 調査対象とする教科書の範囲と分析方法

2.1 教科書の範囲

日本と中国の図画工作科教科書内容の範囲について全般的に理解するために4つの視点で比較する。第一の視点は題材名の役割についてで、両国の図画工作教科書教科内容の分析を通してそれぞれ教科内容に対する題材名の役割について比較し、評価する。第二の視点は造形表現についてで、両国の図画工作の教科内容の中で造形表現のねらいと指導方法を比較し、評価する（立体物による造形活動と絵画による造形活動）。第三の視点は鑑賞授業についてで、両国の図画工作鑑賞授業の内容を理解するために鑑賞授業の内容範囲とねらいを中心に比較し、評価する。第四の視点は学年による授業の難度についてで、両国の学年年齢に対する授業内容の難度を比較し、調査する。

2.2 分析方法

両国の小学校における図画工作の教育用として出版されている教科書の内容を事例として取り上げ、各単元群の題材と学習内容を列挙し（例えば、造形表現や鑑賞の授業の代表的な授業内容を選択式で一つ列挙する）、その構成や方針について分析することとした。

具体的には、両国の学習指導要領、教学参考用書¹¹⁾、内容解説資料¹²⁾を基にして、教科書内容の中で表示されている児童向けの「題材名」、「学習のめあて」¹³⁾、「導入文書」、「くふうポイント」¹⁴⁾、「作品活動写真」を表で比較し、具体的に解釈し分析した。

3 教科書内容の比較と分析

3.1 「題材名の設定の仕方」の比較

内容解説資料の内容基準の説明によると両国の図画工作教科内容に対する題材名の役割はそれぞれ異なっている。日本の図画工作科授業題材名の役割は、活動への興味・関心・意欲がもてるような名称にしている¹⁵⁾。中国の図画工作科授業題材名の役割は、授業の内容、特徴を総括することとしている。

ここでは、日本と中国の図画工作科教科書の中から2つの授業内容を選択して、比較した。比較対象は「導入文」と「くふう」である。中国の図画工作科授業題材名が授業内容に対してどういう役割であるか、また、指導方法によって、題材名を生かして授業内容を子どもたちの興味・関心・技能を大切にしていけるかについて調査した。

3.1.1 事例1：造る物が決まっている場合の比較



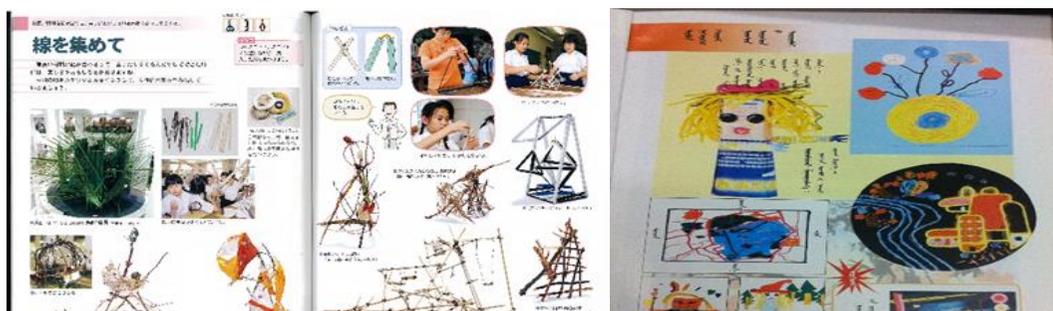
図-1：「わたしの小さな部屋」と「自製と小さなフレーム」

国	日本	中国
題材内容	「図画工作」 日本文教出版	「小学校の美術教科書」 中国人民出版社
題材名	わたしの小さな部屋 (5、6年生下)	自製と小さなフレーム (6年生上)
導入文	自分の気持ちをこめた小さな部屋を想像し、粘土の板を使ってつくる。心がふっとリラックスできる。	自分の生活の写真に自分らしくフレームを作ってみましょう。活動中から喜びと自信が芽生える。
「比較、分析」	粘土の板を基にして、自分の気持ちを表すのにふさわしい表し方を考え、小さな部屋をつくる。	自分の写真に合わせて、フレームに装飾をする。形、色、デザインを考える。

くふう グループ研究	どんな部屋ならリラックスできるだろう。部屋の中に自分を想像しながらつくる。	どんな材料を使って造るかを考える。 どんな造形、色ならあなたの写真にあうかを考える。 フレームの裏をどのようにとめるかを考える。 材料を参考にして、どのようにフレームを立てるかを考える。
「比較、分析」	児童たちが自分なりに考えて創造すること。自由に造ること。	フレームの造り方や造る技能を中心に教えている。うまく作ることができること。
ふりかえり ¹⁶⁾	部屋の中にこめられた友だちの思いを見つけてみよう。	自分の選んだ材料を使って設計し、自分の生活に似合う装飾する。そして、誰のフレームが一番綺麗なのかを皆で比較してみよう。
「比較、分析」	想像を広げて自分だけでなく人間関係を考えることについて促す。	児童たちの想像力や思考力の高めるための授業ではなく、技能の指導を強調されている。

表 1：題材名設定の仕方の比較

3.1.2 事例 2：造る物が自由の場合の比較



教科書内容の写真を見ると、日本の方は様々な材料で好きに造った形を提示して様々なやり方や思いを提示している。中国の方は、一種類の材料を使った作品の写真と様々な装飾を提示している。両方とも様々な形や物を造ることができるように見える。

図-2：「線を集めて」と「毛糸の巻」

国	日本 「図画工作」日本文教出版	中国 「小学校の美術教科書」中国人民出版社
内容説明		
題材名	線を集めて（5、6年生上）	毛糸の巻（3年生の下）
「比較、分析」	両方の題材名が子どもの想像を引き出し自由に想像することができるように考えられている。	

学習のめあて 題材の目標	細長い材料を組み合わせ、美しいと感じられる形をくふうしてつくる。	毛糸はいろいろな形ができる。
「比較、分析」	児童たちが活動内容を理解し易い。自由に創造や構想をすることができる。	児童たちが活動内容を理解し易い。授業に対して、興味や好奇心を持つことができる。
導入文	細長い材料が組み合わせあって、立ったりふくらんだりしてできた形には、美しさや面白さがありますね。材料を組み方やつなぎ方をくふうして、立体的な形を生み出していきますよ。	毛糸の巻があなたにインスピレーションを与えたかな。毛糸は様々な形にできます。
「比較、分析」	児童たちが材料を様々な形で試しながら、さまざま方向で想像することができる。子どもの創造力と想像力を大切にしている。	児童たちにとっては、材料が限られている。材料を見て発想していくことを大切にしている。
くふう	つくることと見ることを繰り返ししながら、気に入った形を見つけましょう。	毛糸を貼って形を造りましょう。
「比較、分析」	児童たちの働きの中で見ること、考えること、想像することを大切にしている。	授業の流れを見ると「くふう」になると技法だけを中心に教えている。
ふりかえり 内容の広がり	どの位置から見ると形の美しさやおもしろさが感じられるかな。	毛糸を使ってフレームを装飾してみよう。
「比較、分析」	児童たちの思考力と想像力を大切にしている。	児童たちを造る物の技能だけに集中させている。

表 2：題材名設定の比較

3.1.3 考察

例 1 の考察：両国の授業題材名、学習のめあての中では、両方とも児童が造る物や使う材料は決まっているように見える。しかし、題材の導入文と工夫の内容の中では、児童に育てようとしている目標に違いがある。日本の方では、児童に自由な発想をすることと身近なものに関心、興味を持たせることを重視し、児童たちの創造力と想像力の成長を大切にしている¹⁷⁾。中国の方では、児童たちに身近なものに対する観察力や注意力を育てようとしているが、作る物に対する技能教育を偏重しているところが多く、児童が材料や造る物を自由に想像することができない。児童の想像力や創造力の発達を大切にしていない。

事例 2 の考察：両方の題材名が「線」という形が決まっている。日本の方では、材料と造る

物が決められていない。児童にとって様々な材料を使って、様々な発見を想像できることを求めている¹⁸⁾。様々な材料を体験し、形や自分自身の想像を組み合わせ、様々な方向から創造力を育てようとしている。中国の方では、一つの材料に決まっているが授業写真を見ると様々な作り方や様々なものに使うことができるし、様々な方向に発想することを求めているように考えられる。しかし、くふうの文章と内容の広がりの方では、児童の体験する好奇心を引き出すことを重視していない。もし、くふうと内容の広がりを変えて児童たちに創造できるような形（例えば、様々な方法で自分の好きなものを作らしましょう等）にすると良い授業ができると考えられる。

3.2 造形表現の「立体表現」と「絵画表現」の比較

美術教育における「造形表現」では、児童の思い付きやアイデアだけではなく、活動を通して思考があり、製作の結果に至る過程や、児童の内面において行われる思考など、目に見えない部分に価値があると考えられる。

中国の小学校図画工作の造形表現の立体物を造る授業内容の中では、表現習得方法として、造形要素や視覚言語技法習得が重視されている。日本の造形表現の中では、子どもに体験させて、発想能力を育成することが学習のねらいになっている。図3と表3では両国の5、6年生の授業題材の中で一番近い造形表現の題材を分析して、中国の図画工作造形表現の授業目標や内容の違いを比較した。

中国の絵画表現の授業内容は、子どもたちに基本的な技法や絵の具を使用できるようにすることが学習のねらいになっている。日本の絵画表現では、絵の具を体験しながら形や色に興味をもつこと、絵に表すことに取り組むことが学習のねらいになっている。日中の絵画による学習のねらいは近いところがある。

3.2.1 事例1：立体表現の比較



図-3：「ねん土の板から」と「物語の人」

国 題材内容	日本 「図画工作」 日本文教出版	中国 「小学校の美術教科書」 中国人民出版社
題材名	ねん土の板から (小学生5、6年生下)	物語の人 (小学生6年生の上)
「比較、分析」	粘土から造られた形から発想して不思議な生き物を造る。	自分の知っている物語の中の人物を想像して、粘土を使って造形する。先に考えて、そこから造る目標を決め、そして造形する。技能教育の方法である。
材料	粘土	粘土
課題設計	立体をあらわす	造形、表現
学習のめあて 題材目標	板の形にしたねん土を変形させることから想ぞうを広げて、空想の生き物をつくる。	自分の知っている物語の人物を粘土で創造する過程で、国内外の文学作品を認識し、立体的な造形で、人間の形を造る技術を勉強する。
導入文	もようをつけたねん土の板を起こしたり曲げたりしてみましよう。どんな形が生まれますか。生まれた形から想ぞうして、不思議な世界に住む、不思議な生き物をつくりましよう。	作品「草原の小さな姉妹2人」の物語を知っていますか？この彫刻作品では、芸術家が石材を使って、草原の姉妹2人が強い風の中で頑張っている姿を生きてるように表現しました(写真)。我々が読んでいた物語の中では、いつもいい人物の印象がもとめられています。あなたならその人物をどうやって彫刻で表しますか？
「分析、比較」	材料を触って体験すること、そして造られたものから発想していくこと。	物語を聞き、そこから自分の知っている物語を思い出す。そこから造る形を決めて、粘土を使って表現する。
くふう グループで研究	どの方向から見ると自分のつくりたいものが見えてくるかな。 起こした粘土の形を生かして、不思議な生き物を表せたかな..	1. 物語の内容に合わせて人物の形象を検討、分析する。 2. どんな動作姿がこの人物の特徴を表すことができるかな.. 3. 身体、両手と両足をどう立てるといいかな？直接手で粘土を扱う方法で物語の人を作る。物語の人物の特徴を表すことができることを要求されている。

表3：立体表現の比較

3.2.2 事例2：絵画表現の比較



図-4：「墨から感じる形や色」と「特徴がある顔」

国	日本 「図画工作」 日本文教出版	中国 「小学校の美術教科書」 中国人民出版社
題材内容	墨から感じる形と色（5、6年生下）	特徴がある顔（6年生上）
学習のめあて	様々な方法を試しながら、墨と和紙で絵に表す。	中国の墨、紙を使用できることと、絵を描く基本的な技法を勉強する。
「比較、分析」	材料を試し、その使い方を勉強する。	中国画を認識、その技法や材料の使い方を勉強する。
導入文	ぼっと落ちた墨、流れる墨、にじむ墨。水と出会ったしゅん間に墨が働きだします。気持ちのおもむくままに手を働かし、体のリズムにせてえがき、墨から生まれる様々な形や色を見つけてみましょう。	一人一人の顔は皆自分の特性がある。太っている顔、やせている顔、やさしい顔、嬉しい顔、厳しい顔、など様々な顔がある。我々の中で一番印象がある顔を思い出す。まじめに観察すると人の顔の特徴を表現することができる。
「比較、分析」	材料を生かして、体験する。体験する過程で思ったこと、発見したことを表す。	先に表現する対象を決める。表現する対象を観察する。そこから受け入れたイメージを表す。
くふうグループ研究	筆や、はけの働かし方、水のかきまぜ方を変えたり、いろいろな用具でどんなことができるか試したりしてみよう。思い出や自分の気持ちも墨を使って表現しています。	1. 教科書の中の人々の顔を分別してみましょう。基本的にどんな形であるかな？ 2. 彼らの耳、目、鼻、口の特徴を探しましょう。 3. 観察した人々の表情を一文字で表してみましょう。もしあなたならどのような絵で表現しますか？
「比較、分析」	材料を試して、その使い方を勉強する。そして、自分の心のイメージを表す。	絵を描く初めの技法を理解し、対象から受け入れた感じを表す。

ふりかえり	どのような方法でえがいたのか、おたがいの作品をみながら話合おう。	特徴がある顔を図画で観察して、それを中国画の具で一枚作品作りましょう。注意：人の表情を表すことができること。
題材評価基準	<p>(関) 墨と水でできる形や色に興味をもち、絵に表すことに取り組もうとしている。</p> <p>(想) 墨の色の濃淡や様子を試しながら、心地よい調和やリズム感のある絵を考えている。</p> <p>(技) 筆や用具を活用しながら表し方を工夫している。</p> <p>(鑑) 自分や友人の作品や作家の作品を見合ったり、話し合ったりして、墨の美しさや表し方のよさ、面白さをとらえている。</p> <p>(想) 墨の色の濃淡や様子をとりえ、そのよさを生かしながら、心地よい画面を構成しようと考えている。</p> <p>(技) 墨の特徴を生かし、筆や用具の効果を考えて、水の量を調整するなど工夫して表している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人物画は、中国画の重要な部分であることが理解できる。初歩的に人物画を勉強する。 ・実践の中で、子どもたちが紙の上で、水、墨、色を様々な形で表現することができる。薄い墨、厚い墨、硬い筆、柔らかい筆を体験できること。モデルを見て事物を一枚描くこと。 ・学習を通して、母国の伝統的な文化や芸術を好きになること。 ・活動を通して、子どもたちの探求、表現能力を育成する。子どもたちの美的な感覚と表現能力を高めること。

表4：絵画表現の比較

3.2.3 考察

事例1は、造形表現の立体物をつくる教科内容である。日本の教科内容では、粘土で遊びながら形を造り、造った形をもとにして、自分なりに想像し、表現させようとしている。材料を自由に触ることと、そこから自由に想像することを重視している。中国の教科内容では、物語や形をもとにして、そこから発想して、造る物の形を決める。つまり、目標を先に決め、立体物を造り出すという授業である。比較してみると日本の教科内容では、材料を生かして自由に造形する方法をとり、形から自由に想像する授業内容が重要視されている。中国の教科内容では、初めから子どもたちに目標を決めさせ、その目標のために形を造っていくという授業の形式である。

中国の前述べた教科内容は、造形表現の教科内容の中だけではなく、教科の全体の内容に含まれている。中国の今までの知識・技能教育偏重の影響があると考えられる。こうした状況は、児童の想像力の発達を無視し、創造空間を狭くしている。

事例2は、絵画表現の教科内容である。日本の教科内容は、材料を自由に触ることを通じて

自分の気持ちを表すことである。そして、水墨画の描き方や材料を認識させようとしている。絵の具を試しながら子どもたちに想像させ、美術に対する興味を持たせようとしている。中国の教科内容では、中国画の一種類である人物画を教えることを通じて、児童に水墨、筆、紙を認識させることを目的としている。そしてさらに、児童に絵画技法や観察力を養わせようとしている。絵の具を使えるようになるより、児童の絵を描く技能や観察力を育てることを重視している。絵の具で遊ぶのではなく、絵を上手に描くことを通して、美術に対する興味を持たせようとしている。

児童は、絵を描いたり物を造ったりするために、材料に触れてそこから物を発想していくべきだと思う。造形活動における系統性は、技術や技能、造形的思考の順調性以外に、児童の発達の実態から出てくる必然性を大切に、子ども自身が個々の活動を結び付けて、自ら成長していけるようにするべきである。

3.3 鑑賞活動内容の比較

鑑賞活動とは、児童が様々な作品などを見て、その面白さや楽しさ、よさや美しさを自分なりに感じ、受け入れる力のことである。児童は、作品などを色や形など自分なりの鑑賞の視点で見て、自分の感じ方で対象となるもののイメージを持ち、自分なりの意味や価値をつくりだす。作品などを鑑賞する活動において、その形態および展開を通してものの見方を広げたり深めたりさせ、児童の感じ取る力や思考力を高めることができるであろう。教科書の内容の設定は、児童の興味をひくような身近な内容や、児童の理解できる様な写真を設定することが何よりも大事だと思われる。

ここでは、教科内容、写真を中心に分析して、鑑賞活動の中でどのような内容が注目されているかについて分析することを目的とした。鑑賞内容の選択は、1. 自分の身の回りと異なった地域や文化の鑑賞内容、2. 自分の住んでいる地域や国、民族の伝統文化の鑑賞内容である。

3.3.1 事例1：自分の身の回りと異なった地域や文化の鑑賞内容



写真の分析：日本の教科写真では、世界中の様々な家と、その周りの環境の写真が掲示されている。様々な家の環境を連想してそこに暮らしている人々を想像することがねらいである。中国の教科書では、北京故宮の具体的な造型と外国の建物の写真が掲示されている。北京故宮と外国の建物を比較してその違いを感じることをねらいである。

図5：「ぞうけいずかん、くらしの形、世界の家」と「凝固な音楽」

国	日本	中国
題材内容	「図画工作」日本文教出版	「小学校の美術教科書」中国人民出版社
題材名	ぞうけいずかん、くらしの形、世界の家 (5、6年生上)	凝固な音楽 (6年生上)
「比較、分析」	世界の様々な地域の家の形。	建築の価値を表している有名な言葉。
導入文	共通していること、ちがっていること。家の形や色に掲示されている、人々のくらしを考えてみよう。	ドイツの詩人が建築を凝固な音楽のようにリズム、旋律、美的感があると言ったことがあります。北京故宮の中では、様々な不思議、素晴らしい建築があります。
「比較、分析」	違った形の家を見て、そこに住んでいる人々の生活に関心を持つこと。	建築の価値、建築の形に興味を持たせる。自分の地域と違った地域の建築を比較してみる。
観察点	児童が、図版をじっくりと見ながら自由に様々なイメージをもつことで発想や構想を広げ、想像する楽しさを体験し、表現への意欲をもてるように設定した。世界の様々な地域の住居を見ることで、使われている材料、形や色の特徴などに気付き、家の機能の共通性や地域の気候との関係による違いなどについて興味をもてるように構成している。	北京故宮の建築特徴や文化を理解する。中国古代建築と外国古代建築の材料や造形特徴を比較して鑑賞する。時代発展によって建築材料の変化について理解する。違う地域や文化の中での建築特徴を認識し、理解する。
作品写真	世界の様々な家やその周りの環境についての写真。	中国の北京の故宮を中心として、様々な建築の写真。

表5：鑑賞授業内容の比較

3.3.2 自分の住んでいる地域や国、民族の伝統文化の鑑賞内容



写真の分析：日本の教科書では、日用品の写真を掲示し、児童に色の伝統的な呼びかたを認識させることをねらいとしている。中国の教科書では、伝統的な芸術作品の写真が掲示されて、児童に自分の身近な作品を認識させることをねらいとしている。

図-6：「形や色を楽しむ」と「故郷の芸術」

国	日本	中国
課題内容	「図画工作」日本文教出版	「小学校の美術教科書」中国人民出版社
題材名	形や色を楽しむ（5、6年上）	故郷の芸術（6年生上）
「比較、分析」	形と色についての鑑賞すること。	自分の故郷の芸術について鑑賞する。
導入文	日本に古くから伝わる色の名前には自然と結びついたものも多い。私たちの身の回りの色には、どのような名前がついているのだろう。しらべたり、ふさわしいと思う名前を考えたりしてみよう。	故郷の芸術の多くは、民間工芸である。私たちはあまり注意しませんが、幼いころから見たり、遊んでいた。この目を立たない故郷の芸術が我々の生活に美や喜びをもたらしていた。今、この作品たちが世界的な芸術作品として見られるようになった。中国の文化遺産になりました。
「比較、分析」	日本の伝統的な文化や道具について関心を持たせようとしている。	国や自分の身の回りの民間工芸について関心を持たせようとしている。
観察点	風景の中に形や色が生みだすリズムを感じることもあるだろう。リズムはならび方や組み合わせ方によって、さまざまに変化する。リズムを感じるならび方や組み合わせ方をさがしてみよう。	故郷の芸術を探そうとしたらどこに行っただ方がよいか。民間芸術家と話しますか？ どうしたら故郷の芸術をうまく探せますか？

表 6：鑑賞授業内容の比較

3.3.3 考察

事例1の考察：日本の教科内容では、様々な家とその周りの環境を見て、そこに暮らしている人々の生活や環境に関心を持たせ、児童が自分とは異なる地域や文化に関心を持つことをねらいとしている。中国の教科内容では、中国の北京故宮と外国の建築の特徴を比較することを通じて、自分とは異なる地域や文化に関心を持たせ、様々な建築について鑑賞し、簡単な古今東西の建築材料、造形の特徴を考えることをねらいとしている。写真について見ると、日本の教科書では、建物やその周りの環境を取り入れていて児童が理解しやすい。中国の教科書では、建築だけの写真に搾っているため児童が理解しにくい。

比較してみると課題の目標は、両方とも、児童に対する世界に関心を持たせ、異なる地域や文化について関心を持たせようとしている。中国の教科書では、そうした地域や文化の写真が建物だけに集中していて、建物の周りの空間についての写真はあまり掲載されていないため、建物のある環境について、児童は理解し難いと思われる。中国では56もの民族がいて、地域によって文化や建築も異なる。したがって、北京故宮のことが分らない児童も多いと考えられる。中国全地域で同じ教科書を使っているのに地域によって児童が理解できない部分もあると考えられる。

事例2の考察：両国の教科内容では、鑑賞活動を通じて児童に母国の伝統的な文化を理解させ、自分の身近な物事について関心を持たせ、児童の観察能力を高め、形や材料に対する興味を持たせることをねらいとしている。そして、日本の鑑賞用の教材（写真）では、生活の中で実際に使われている物や食べ物の中に芸術を見つけていくようになっている。児童の身近な物事から材料を使っているため、児童が理解し易い。中国の教材（写真）では、民間の工芸を鑑賞することを通じて、自分の町や民族の文化について認識させることをねらいとしている。児童の身近な物もあるが、児童が全く見たこともない作品もある。

4 まとめ

4.1 教科内容の傾向

中国の図画工作科教科書の内容は、これまでの知識・技能教育を偏重してきた指導方法の影響を受けている。絵の具を触ったり、遊んだりすることを通じて美術に興味を持たせるという方式ではなく、絵を上手に描くことから美術に対する興味を持たせようとしている。教科書の教科内容の幅が狭く、児童に自由に発想できるような教科内容が少ない。

4.2 造形表現

造形表現の中では、目標を立てて形を造ることではなく、児童に材料に触ることの楽しさを味わわせることから自由な発想をしていくことが大切だと考えられる。しかし、中国の教科書は一律に同じものが使われているので材料に制限があると思われる。教科内容の造形表現では、地域性や児童たちの生活環境に合った内容が少ない。

4.3 教科書の掲載写真の選定

児童に教科書の内容を通して様々な作品や美術の価値や行為を示し、その示された価値や行為をもとにして、自分自身に合った手段を自ら見つけ出すことができるような内容が必要となる。つまり美術の表現や行為において教科書に示された作品の多様性が児童たちの学習を充実させることが今後の課題である。

教科書には様々な作品を載せるべきである。児童にとって憧れとなる作品だけではなく、好奇心を感じる作品、自己開示を促す作品、自国の文化や伝統を学ぶ作品、異文化が体験できる作品などである。そのような多種多様な作品を、学習目的にあった題材に照らし合わせて掲載していくことが必要である。

5 今後の研究課題

今日の内モンゴル自治区の図画工作科のカリキュラムのあり方について考察するため、中国の全地で使われている図画工作科教科書内容と日本の図画工作科教科書内容を比較研究した。その理由は以下の2点である。①内モンゴル自治区のモンゴル族小学校で使われている図画工作の教科書は、中国全土で使われている教科書とほぼ同じであって、地域性がないし、知識教育を偏重した教科内容が重視されている。この地域の教育はもともと専用の教科書を使っておらず、地域の教育者が、自分の作品や実物の模写や写生を通して絵画の技法や知識の教育を行っていたが、1992年から全国で同じ図画工作科教科書が配布された。少数民族に関しては、「民族自治機関では少数民族の文字による教材の編集、出版および検定を強化すべきである」と指摘されている。しかし、内モンゴル自治区のモンゴル族小学校で使われている教科書の中で「モンゴル語」や「音楽」の方は地域性のある内容が入っているが図画工作科教科書の内容は中国全土で使われている内容とほぼ同じようになってきている。②内モンゴル自治区教員養成システムでは、学生たちに教員になるための様々な知識を詳しく教えておらず、美術の専門知識の授業を履修させている。それが原因で、教科書の内容の中に地域の特性や材料に合わせて使えるような内容があっても、その授業内容を生かして、児童に興味を持たせる活動内容をつくる

ことができる教員があまりいないので、伝統的な教育方式で授業を行っている。

今後は、内モンゴルの図画工作科教科書の内容を充実させる教科内容と課題を開発する研究を行いたい。また、内モンゴルの教員養成システムの教育方法について解明していきたい。

<注>

- 1) 「小学校の美術教科書」(図画工作) 中国人民出版社 2003年
- 2) 「図画工作」日本文教出版 2011年
- 3) 中華人民共和国教育部制訂国家義務教育「課程票准(指導要領)」 2002年
- 4) 文部科学省:「小学校学習指導要領解説 総則編」 2008年
- 5) 教育部基礎教育司:走進新課程,北京師範大学出版, p.2, 2002
- 6) http://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/zuko/zuko_dl/ (2013年11月20日閲覧)
- 7) 日本での「学習指導要領」は、中国での「課程標準」に相對
- 8) 注6に同じ
- 9) 中華人民共和国教育部制訂国家義務教育課程票准、p.7
- 10) 文部科学省:小学校学習指導要領解説 総則編, p.1, 2008年
- 11) 「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 2008年
- 12) 「日本小学校図画工作內容解説資料」 日本文教出版 2011年
- 13) 日本での「学習のめあて」は、中国での「題材目標」に相對
- 14) 日本での「くふう」は、中国での「グループ研究」に相對
- 15) 「日本小学校図画工作年間指導計画作成資料題材別カリキュラム」日本文教出版 2011年
- 16) 日本での「ふりかえり」は、中国での「題材広がりと学習要求」に相對
- 17) 「日本小学校図画工作教科書検討の観点からみた特色」日本文教出版 2011年
- 18) 「日本小学校図画工作教師用指導書」日本文教出版 2011年

主指導教員(佐藤哲夫教授)、副指導教員(伊野義博教授・柳沼宏寿教授)